1985年5月25日第三種郵便物認可　2014年4月1日発行（毎月1回1日発行）通巻534号

福祉のひろば

4
2014

特集

あなたの近未来はここにある！
――社会福祉現場で五年間働きつづける先輩たちからの発信

ひろばトーク

社会福祉法人コスモス　コスモス研究所
実践アドバイザー・発達相談員　中村（なかむら）　清隆（きよたか）さん

人の一生をとらえ、ライフステージにあった支援を

編集　総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒　604－8083
京都市中京区三条柳馬場東入中之町１０
代表取締役社長　　川下　晃正
TEL　（075）211－7277
FAX　（075）211－7270
http://www.kyoto-archi.co.jp/

社会保障・社会福祉の原理・原則がここにある！

真田是著作集[全5巻]

全5巻セット　普及価格 14,915 円（税・送料込）

一巻ごとでもご購入いただけます
各巻3323円（税・送料込）

第１巻　社会問題論
第２巻　社会保障論
第３巻　社会福祉論
第４巻　Ⅰ 地域福祉と社会福祉協議会
　　Ⅱ 民間社会福祉論
第５巻　Ⅰ 福祉労働論　Ⅱ 社会福祉運動論
　　Ⅲ 部落問題論

発行●福祉のひろば　（書店ではご購入いただけません）
インターネットで「福祉のひろばオンライン」➡「書籍」を検索してください。
お支払いは便利なカード決済で。▶お問合せ先　TEL･FAX06-6779-4955

―― 語り 伝え そして いっしょに 考えてください ――

人のいのち 暮らしが脅かされている現実に向き合う社会福祉を

「今の保護基準は生活権はおろか、生存権すら保障していない。１万件を超える審査請求は、必ずや要保護者代表を審査や保護基準を定める段階に入れろという民主化・人権化要求につながるであろう。」　（小川政亮さん、今年１月25日で94歳。月刊「生活と健康」2014年１月号より）

今号では、連載終了にあたっての鼎談を掲載しています。（40ページ～）

２月４日、大阪で「生活保護の改悪反対　憲法25条を守れ　２・４不当弾圧許すな！　怒りと集会・デモ」が行われ、全国から多くの人が集まり、会場を埋め尽くしました。昨年２月に大阪淀川生健会（生活と健康を守る会）が、９月には同会と大生連（全大阪生健会）が家宅捜査され、10月には全生連（全国生健会）にも強制捜査が入りました。捜査理由は、生活保護法違反をした元会員の、生活保護申請に同行したというだけのものです。また、申請同行に関係のない書類が押収されています。

この事件のねらいは、第一に生活保護法改悪反対運動と、保護基準引き下げの中止を求める運動の広がりを抑圧することです。第二に、生活保護の申請同行を萎縮させることです。私たちは、この攻撃に怯むことなく運動を強め、基準引き下げの審査請求に取り組み、審査請求を行った生活保護利用世帯は全国で１万世帯を超えました。これは、1950年に現在の生活保護法が制定されて以来、最高の請求数です。改正法は成立しましたが、申請や扶養義務など、運動によって大幅に譲歩させています。

憲法と乖離した現実、事態が広がる中で、特に、社会福祉の分野においては、一つひとつの社会福祉を後退させる国家のねらいや動きを許さずに、同時に、国民生活そのものにその矛先が向けられ、共有と共同・協働の幅広い、粘り強い運動と実践が深まっています。４月には、多くの若いなかまたち、新しいなかまたちを迎えます。そのなかで、丁寧に、語り、伝え、生活問題にふれ、自らの頭をめぐらせ、一緒に考える取り組みが現場から広がっています。

（写真・文：下野祇園　２面・３面のコメントは集会宣言より）

福祉のひろば
2014年4月号

【ひろばトーク】
人の一生をとらえ、ライフステージにあった支援を　中村　清隆　6

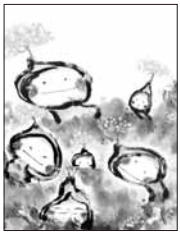
●特集●　あなたの近未来はここにある！
５年間の変化をグラフであらわすと……　12
社会福祉現場の５年ってこんなかんじ？―調査研究チームの仮説―　14
〈座談会〉社会福祉現場の５年間って？
――ふりかえって気づくこと。いま伝えたい。　15
佐々木彩佳、田村美里、藤本夏輝、村上裕子
森下和樹、山本弓華、吉見一輝
５年も働きつづけた若者たちに接近、その秘密を探る　深谷　弘和　29

●トピックス●
講座「社会福祉の本質を問う！」大学院生のレポートを紹介　31
介護保険制度改悪は何をもたらすか　日下部雅喜　32
４月実施の障害者総合支援法の変更ポイントと課題　雨田　信幸　36
〈鼎談〉「連載 小川政亮執筆 第２部 自伝」を終えて　40
小川政亮・井上英夫・垣内国光
「人らしい生活、ふつうの生活、最低限の生活って、なんですか？」　48
2013京都社会福祉講座、実り多く、終了　52

●連載●
フォーラム
障害者の人権を保障する新しい時代の到来をめざして　吉本　哲夫　56
あれから３年……釜石・東日本大震災を記録する会代表
一、大津波襲来から避難所まで　前川　慧一　58
相談室の窓から　集団参加が苦手なB君（2）　青木　道忠　60
わらじ医者　早川一光の「よろず診療所日誌」　早川　一光　62
育つ風景　保育の方法を考える要素　清水　玲子　64
いっぽいっぽの挑戦（13）
「就労支援」と「生活再建」のはざまで　繁澤　多美　66
映画案内　『愛、アムール』　吉村　英夫　68
現代の貧困を訪ねて　生田　武志　70
梅田の野宿者襲撃・殺人事件の裁判員裁判を傍聴する
なにわ銭湯見聞録（拾弐）　ラッキー植松　72
いただきます！　みんな大好き　いちご大福　槻ノ木荘　74
ホームレスから日本を見れば　ありむら潜　76
花咲け！男やもめ　川口モトコ　77

みんなのポスト　54／今月の本棚　53／福祉の動き　78
●グラビア●　―語り 伝え　そして いっしょに考えてください―
人のいのち　暮らしが脅かされている現実に
向き合う社会福祉を

●表紙の絵●
神門やす子



●カット●
川本　浩

ひろばトーク

人の一生をとらえ、ライフステージにあった支援を

社会福祉法人コスモス　コスモス研究所
実践アドバイザー・発達相談員
中村（なかむら）　清隆（きよたか）さん

昨年四月から、社会福祉法人コスモス（以下、コスモス）で働くようになりました。それまでは、堺市で障害児通園施設や療育相談所を経て、退職までの一〇年間は保育所の障害児保育にかかわってきました。堺市内の約一〇〇か所の公・民保育所の巡回相談を三人でおこなっていました。堺市では三五〇人ほどの子どもが障害児保育の対象になりますが、公立保育所の民営化の流れにあってもこの規模を維持することが課題でした。巡回では民間保育所を半日単位で回りますが、相談ケースとして二〇人を超えることがしばしばあり、不十分な相談活動に悩むこともありました。しかし、他市にはない事業でもあり、一方で保育士は時差勤務のうえに、常勤・非常勤・パートの雇用形態の中で孤立し悩んでいることがわかり、できる限りこたえていきたいと思っていました。

定年退職を前にコスモスから誘っていただき、飛び込むことにしました。現在の仕事のひとつは、障害者作業所やケアホームを中心として、職員と一緒に発達検討会を実施することです。作業所での仕事や生活のようすを観察し、発達検査もおこない、職員の悩みから出発して対象者への発達理解が深まるよう心がけています。一日一ケースでおこないますが、二〇人あまりの職員が参加してくれます。青年期・成人期に作業所等の生活の場があることで、障害のある人が三〇代、四〇代を超えても新たな発達に挑戦していることに気づけたときは、喜びです。

また、新しく入職した職員の研修も担当しています。法人として、発達保障の理念を若い職員にどのように伝えるか、重要な課題です。たいへんむずかしい課題ですが、試行錯誤しながら取り組んでいます。そのほか、児童分野もふくめ法人内外のいろいろな

なかむら　きよたか

1978年、大阪府堺市に入職。堺市立えのきはいむ、こども療育相談所、堺市立第１・第２つぼみ園を経て、保育運営課主幹兼指導係長で定年退職。現在、社会福祉法人コスモス　コスモス研究所在職（実践アドバイザー・発達相談員）。なお、コスモス研究所の所長は、中内福成氏（障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会会長。本誌2014年１月号のひろばトークに登場）。黒田孝彦本誌編集主幹は、大学時代の後輩。

会合に参加しています。

この一年を通してまず感じたことは、ケースファイルを見ていて障害者自立支援法以後の利用者の場合、その人の生活歴の記録が措置時代からの利用者にくらべて乏しいということです。いつごろ障害が把握されたか、家族はどのように受け入れてきたか、どんな支援をどこで受けてきたかということや、その人の成長や発達の過程等の記録が少ないのです。契約制度では重要とされていないのかなと思います。しかし、その人のいまあるすがたは、その人の人生の中でとらえる必要があるので、現場の方たちには生活歴の把握をお願いしています。医療との関係では、投薬数の多さが気になっています。向精神薬など一〇種類以上の薬が処方されている例にいくつかであいました。家族だけで受診し、その訴えから処方されている場合もあるようですが、医療との連携のあり方も課題だと思います。

さらに、作業所など障害者施設を利用する当事者と家族の高齢化が進んでいることにも注目しています。当事者が四〇代以上で、七〇代、八〇代の親が家庭で介護している事例がたくさんあります。当事者の老化も、個人差がありますが、三五歳あたりから注意していかねばならないのではないかと思います。作業所やケアホームという事業だけでなく、地域でのくらしの場を豊かに創造していく必要を感じています。

コスモスは、保育所、放課後デイ、ショートステイ、ヘルパーステーション、高齢者施設などをもつ大きな法人です。人の一生をとらえ、ライフステージにあった支援を描く作業に少しでも役立てたらと思っています。

（聞き手　編集主幹）

特集

あなたの近未来はここにある！

――社会福祉現場で五年間働きつづける先輩たちからの発信――

総合社会福祉研究所は、二〇一四年度の一年間をかけて、社会福祉現場で五年間働きつづけている人々を対象に調査をおこない、実態把握と育成の提言ができるように研究活動を進めることにしました。四月号は、この一年間の取り組みのスタートです。三名の若手研究者と申研究所事務局員の四名の調査研究チームで出発することにしました。よろしくお願いします。

なぜ、勤続五年を対象に、一年間通しての調査なのか

社会福祉現場を離職する人の七五％近くが、勤続三年未満です。事業所の方々からうかがうのは、「いまや三年は中堅。なかには主任等の職位に就く場合もある」ということ。ひとつの山が三年目にあると現場からも語られます。そこで、三年を過ぎ、冷静にふりかえることもできる勤続五年の方を対象に調査をすることにしました。同時に、二〇代後半に入るという世代の特徴や家庭づくり等への意識対象としても考察しています。調査研究チームはまず、先行調査で聞き取り調査を多業種でおこない、二回目に通所系と入所系とに分けて聞き取り調査をおこないました。今回の特集で紹介する座談会は、この二回目の聞き取り調査の内容です。

この調査活動は、一年間をかけて、先行抽出調査からはじまり、夏から秋にかけて量的調査に取り組みます。量